

# 子育て環境日本一を目指すために いま子育て中の皆さんに聞いてみました。

## 私の提言

◆親が子どもにできることのひとつは、選択肢をできるだけ多く用意することだと考えている。

スーパードお菓子を選ぶこともそうだし、高校進学でも栃木県内なのか、日本全国なのか、あるいは全世界なのかというように。

選択肢が多くなれば

その分可能性は広がる

のは間違いのないけれど、その背景には選択肢を用意できるだけの親の意識が必要になってくる。

◆そのため、子どもばかりに目を向けるのではなく、もっとやるべきことがあると私は思っている。

◆親自身が狭い範囲で物事を捉えていては、選択肢は絶対に広がらない。

◆例えばこれまで会ったことも話したこともないような人と交流する機会をつくったりするのでもいいのではないかとと思う。人は付き合う人によって変わっていくからだ。

◆ただどんなに選択肢があっても、最終的な決定は子どもが行うことになる。が、決断には勇気がいる。これはに関して、小学校や中学校のうちから小さな決断を積み重ねることで大きな決断ができるようになると思うので、自信を持たせることが重要なのではないだろうか。

◆このために、できるだけ試練を与え、自分で決断し行動できるような場をつくっていくことが大人の役割となると私は考えている。

◆例えば自分の足で移動し実際に「ある場所」に行ってみたり、いろいろな人の考えを聞くことでもいいと思う。

◆一から十まで全部を教えるような時代は終わっている。親が行動したことには変わりないのだ。

◆一から十まで全部を教えるような時代は終わっている。親が行動したことには変わりないのだ。

◆そういう人材を輩出できるような街であってほしい。(三十代・小学生の母親)



## 時代を切り開く人材を育てよう

## 【矢板の誇り】 おらがまちの芸術家

十月六・七日、文化会館小ホールにおいて「第五回一文字書道コンクール」が開催されました。

このコンクールは、「半紙に一文字で夢や希望を表現する」をテーマに、書家の柿沼翠流さんが主催、今年はお子息の柿沼康二さんが選者となっています。

柿沼さん親子については矢板で知らない人がいないほど有名ですが、今回のかわら版では、なぜ一文字書道なのかをお聞きしてみました。

●このコンクールの概要は？  
全国でいろいろな書道コンクールが行われていますが、半紙に一文字で表現するコンクールの概要は？

## 子どもの自由な感性を大切に育てる 柿沼翠流さん(扇町)



とくに、子どもには、書道に対する徹底的な興味付けをしてやりたいと思います。

◆編集後記  
今の子どもたちは、「ぼうじぼ」のことをどのくらい知っているのだろうか？  
伝統文化は伝える人がいないと消え去っていく。矢板のまちから、そういったものが消えていくのは寂しい限りだ。  
伝えていくのは大人の役割。シルバー世代の活躍の場はそんなところにもありそうだ。

●なぜこのようなコンクールを？  
ある書道の審査会に参加した時に、型にはまった書が評価されているのを見て、これでは、いけないと思いました。



私は、そういう「童書」がとても大切だと考えています。  
◆どのような書が入選したのでしょうか？  
書には、その子の持っている自由さ、パワーが表れるものです。審査は、技術だけではなく、そのあたりを見ました。